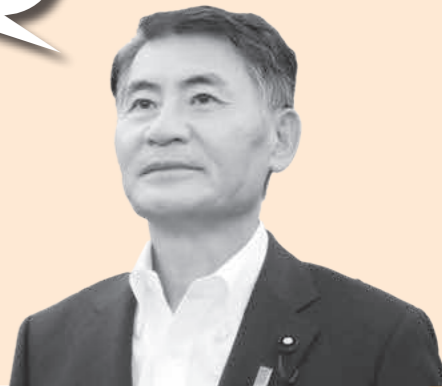


段差解消工事を求める



羽鳥光博



町長

段差解消工事が実施される

質問

県道高崎伊勢崎線と板井東部公民館に向かう町道との段差について、地域住民から解消工事が要望があるが、早期に対応すべきではないか。

答弁

町長 今年7月に地元区長から要望書が町に提出され、県道路管理者である伊勢崎土木事務所と協議し、段差解消工事が実施されることとなった。実施時期等は、現在検討中とのことである。

質問

県道と町道との接続箇所については、町内の他の地区でも損傷が認められると考えられるが、町はどのように対応するのか。



県道高崎伊勢崎線から板井東部公民館に向かう道路の段差箇所(板井地内)

答弁

都市建設課長 町の道路網は、長寿命化計画に基づき、道路補修を行う予定である。こうした国道・県道との接続箇所は現地確認の上、優先順位・緊急性を考慮して順次やっていきたい。

下水処理場における下水汚泥の有効活用を

質問

化学肥料が高騰する中、下水汚泥を資源化し、肥料として販売するなどの有効活用を図ることが必要になってくると考える。

町は下水処理場の受入れに当たり、県と覚書を交わしているが、下水汚泥の資源化への取組に支障となる取決めや県に資源化の要望ができる取決めはあるか。

答弁

町長 覚書では「町内では汚泥を処分しないこと」とある。また、公害防止協定では、「県は下水汚泥の有効利用の促進に努める」と取決めを交わしている。

町としても、再生可能な資源の有効活用は、重要であると認識している。県と協議の上、慎重に進めていきたい。

在宅者の配食サービスについて

質問

自身で食事が作れない住民に対し、安否確認を兼ねた配食サービスの拡充ができないか。

答弁

町長 年齢を重ねて独りきりになり、孤独感の中で日常を過ごす高齢者がこれから増える中、安否確認を兼ねた給食サービスは現在もっている。近隣市町村の状況及び、町の現状を踏まえ、独居高齢者の栄養と精神的な安定について、改めて捉え直したいと考える。

こんな質問もしています

玉村町の小中学校に配属されたスクールカウンセラー及びびスクールソーシャルワーカーの活動について

観光交流拠点公園の進め方は



新井賢次



町長

まず公園整備の可能性を調査する

質問

令和4年度の新規事業として、高崎玉村スマートIC周辺地区に、観光交流拠点公園構想調査事業が予定されている。具体的にどのような形で進めていくのか。重要なことは、玉村町としての考え方、町民からの声を委託業者とキャッチボールすることだと思う。そうすることにより、画一的でない実効性のある、より意味のある構想が描けるのではないかと思うが、どうか。

答弁

町長 本事業は、町の新たな玄関口である高崎玉村スマートIC周辺に、高速道路を利用する観光客を町に呼び込むことができるような、民間の商業施設等を兼ね備えた観光交流拠点となる公園整備(調査面積3.7ヘクタール)の可能性について、調査・検討を行うものである。現在、現状把握や敷地分析などを行い、公園整備基本計画を作成している。その後、民間事業者へのサウ

質問

ンディング調査を実施し、参入意欲や整備可能なスキーム、事業参加の可能性等を把握し、公園整備の可能性を判断する。

質問

一例として、騒音対策等の環境面を考慮すると、最近注目度が高まっているスケートボード施設の建設計画地として、最適ではないか。

答弁

町長 具体的な施設は、公園整備事業の着手を決定した後、検討を行っていく。

独自ブランドの麦焼酎の開発を

質問

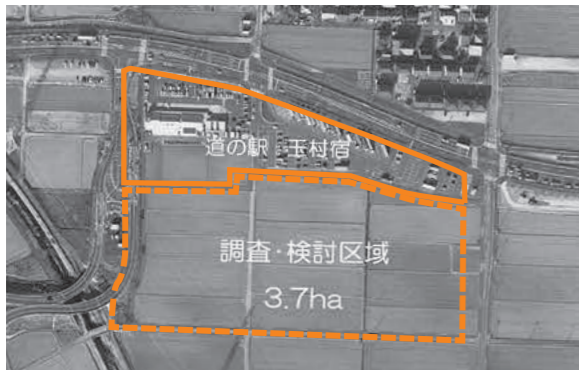
玉村町の農業関係者を中心に「玉村町産の小麦を使って独自ブランドの麦焼酎を開発しよう」との動きが生まれ、機運が高まっている。「麦の郷」のイメージとも合致し、周辺に期待する声が多い。そして何よりも、新しいことに挑戦しようという試みが素晴らしいと思う。町として積極的にフォローをすべきであると思うが、

どうか。

町長 課題がいくつかあるが、どのような体制で進めることがよいかを含めて、玉村町産の麦を用いた新たな特産品として、製品化できるように検討を重ねていきたい。

こんな質問もしています

電力自由化後の新電力会社との契約の状況・推移及び今後の電力量の削減への取組について
社会体育館の指定管理者制度導入について



観光交流拠点公園構想が進む調査対象地